

1-1. 事業概要

2024年度は、JSCAの諸活動を概ね当初の予定通りに成し遂げることができた。

各種の講習会やイベントとして、本部主催の主なものは、6月の「構造設計一級建築士修了考査解答例講習会」、7月の「JSCA建築構造士定期講習会」、10月の「建築巡りツアー見学会in大阪」「スキルアップセミナー」、11月の「構造デザイン発表会in東北」、2月の「賛助会員技術交流会」などが挙げられる。いずれも多くの会員・非会員が参加した。支部主催では、関西支部「阪神・淡路大震災30周年企画」において250名超の参加者があった。また、本部では「若手技術者と熟練技術者との交流会」「若手構造デザイン発表会」を今年度初めて開催し、北海道支部では「青年部会」、関西支部では「U-45交流会」がスタートするなど、若手向けの組織・イベントが充実してきた。国際活動としては、11月に日中交流会が中国/成都で、12月に日米+NZ協議会が米国/サンディエゴが開催され、それぞれJSCA会長、副会長が参加した。中部支部では11月に中国四川省科学技術協力協会の視察団に対し、日中の耐震設計の紹介などを行った。

会務としては、2020年度に策定した中期ロードマップが2024年度で予定の5年間を終了した。成果を挙げた項目もあるが、コロナ期間を挟んだこともあり、十分な成果が得られなかった項目も多い。それぞれ検証し2025年度以降「リ・ロードプラン2025」として課題の解決を目指していく予定である。会員制度に関して、将来のJSCA正・一般会員増を目指して、2024年度から学生会員の会費無料を実施した。

毎回、編集に協力している「建築物の構造関係技術基準解説書」が改訂され、2025年版として講習会、冊子販売が始まる。今回は木造関連と一部鉄骨関連の改正が主であった。同解説書は構造設計者の利用頻度が高いものであり、質疑対応やQ&A作成に関与していく。

2010年度から学生と企業を仲介してきたJSCAインターンシップ活動は、インターンシップに関する社会環境の変化を踏まえて2024年度で終了した。14年間で718名の学生の仲介を行いその役割を十分果たした。

2024年度の重点目標に関する事業は下記の通りであった。

1) 会員増に向けた活動

① 中期ロードマップに関わる事業計画の成果の検証

- ・正会員について、2021年度69名、2022年度54名の新規入会者が2023年度は110名、2024年度123名まで回復した。一方、退会者は2023年度168名、2024年度160名であり、高い水準が続いている。
- ・学生会員の会費無料を実施した結果、2023年度末に7名であった学生会員は2024年度末には34名まで増加した。これからはアイデアコンペなどのイベントを通じてJSCA入会を広報していく。
- ・中期ロードマップでは会員に占める構造設計一級建築士比率のアップを目指してきたが、構造設計一級建築士は増加、JSCA会員は減少の関係になり、比率は31.6%から28.4%に

小さくなった。

- ・JSCA入会の意義を理解し、継続してJSCA活動に参加してもらうには、入会後の様々なフォローが重要である。本部・支部ともに、引き続き会員増に向けた活動が必要である。

② JSCAのプレゼンス向上と社会への周知に向けた事業計画の策定

- ・JSCA賞は35回を数え、建築構造に関わる賞として社会から高い評価を受けている。今後も構造設計者の目標となる賞として継続していく。
- ・国土交通省や自治体、その他関係団体と連携し、建築構造の専門家として建築行政や建築物の構造安全性の向上に引き続き務めていく。

③ 会員相互の交流増による活動の活発化

- ・本部と支部の技術委員会の共同開催を、2024年度は北海道支部で開催し、情報交換・委員交流を行った。
- ・将来の支部開催を視野に、北海道支部から構造デザイン発表会in東北に4名を派遣した。
- ・関東甲信越支部では、「サミット」を複数回開催して交流を深めた。
- ・関西・中国支部では共同の見学会を行い、計41名の参加があった。

④ 技術力・創造力を高める活動・場の提供等による会員の増加に向けた活動

- ・「構造デザイン発表会in東北」は約330名が参加し、多くの発表と熱い議論が交わされ、とても有意義なものであった。発表会以外に、鉄筋モックアップ研修や東日本大震災被災地見学が行われた。
- ・この会での発表を契機とする入会者は多く、今回も40名が入会した。
- ・各支部でも同様の発表会・交流会が精力的に行われた。

⑤ 今後の告示8号の見直しに備えた適正な業務量の把握および周知

- ・業務委員会内に検討WGを立ち上げ、検討を開始した。

2) カーボンニュートラル社会実現へ向けてJSCAとしての活動

① 中大規模木造建築の構造設計に係る情報整備

- ・中大規模木造建築物の標準的な構造設計、構造計算プログラムの開発支援を行った。
- ・技術委員会/木質系部会で「中大規模木造建築物のQ&A」を作成し、技術委員会報告会で報告した。項目は継続的に追加していく予定。

② 木造関連会社との技術交流及び委員会活動等の活発化

- ・木造関連会社との技術交流はなかった
- ・技術委員会/耐火設計部会で、準耐火計算シートを作成した。2025年度は会員への周知を図る。

③ 原単位等の整理および既存ストックの有効利用についての情報整備

- ・地球環境問題委員会で継続検討を行っている。
- ・建築関連21団体による「脱炭素社会推進会議」に参加し、関連情報の収集と発信を行った。

3) BIM普及・推進へ向けた活動

- ① 構造設計におけるBIMの普及・推進へ向けた活動
- ・引き続き、国交省建築BIM推進会議および関連部会に参画した。
 - ・九州支部主催「構造設計者のためのBIM講習会」を全国に配信し320名の参加があった。
- ② BIMを利用した品質、生産性向上へ向けた活動
- ・基準図のモデル化について各社と調整を行った。
- ③ 建築他団体との情報共有および連携
- ・技術委員会/BIM部会で鉄骨関連BIMメーカーにヒアリングを行った。

4) より信頼される構造技術者を目指す

- ① 良質な社会資本形成を目的とし、JSCA性能設計【耐震性能編】の普及
- ・JSCA性能設計を非住宅建築に適用するため「(仮称) JSCA性能認証」の準備を開始した。
- ② JSCA会員の技術力向上およびJSCA建築構造士の価値向上と社会への周知に向けた施策
- ・本部・支部において、様々な講習会・研究会を開催し、会員の技術力向上に寄与している。
 - ・JSCA建築構造士の資格者は最大2500名であったが、現在は1200名を切っており、減少に歯止めがかからない。有効な解決策を見出せない状況が続いている。
- ③ 構造関係他団体との情報共有および連携
- ・本部から関係団体へは80名を超える委員派遣を実施しており、随時、情報共有を行っている。
 - ・他団体講習会などへの後援も多く、JSCA建築構造士評価点としても活用されている。

上記以外にも様々な事業を行った。詳細は会議報告、委員会活動報告、支部活動報告などを参照されたい。

1-2. 役員／体制

- 役員
- 会長 小林秀雄（代表理事）
- 副会長 久田基治（代表理事） 杉浦盛基 中塚光一
- 専務理事 嵐山正樹（業務執行理事）
- 常務理事 日野康彦（業務執行理事）
- 理事
- 本部担当 江尻憲泰 大島嘉彦 太田俊也 奥野親正
嘉村武浩 小林真一郎 小林裕明
佐々木直幸 塩手博道 島村高平 原田 卓
山田憲明 渡邊秀幸
- 支部担当 北海道 山脇克彦 東北 平山浩史
関東甲信越 一條 典 中部 塚越治夫
関西 島野幸弘 中国 村瀬忠之
四国 戸田友一 九州 今林光秀
- 監事 新宮清志 向山松秀 横山一智
- 支部長 関東甲信越 山内哲理
上記以外は各支部担当理事が兼務
- 協会顧問 弁護士 服部成太

公認会計士 元森俊雄
前専務理事 福島正隆
□事務局員 職員数4名（うち大阪1名）

1-3. 会員数の推移

年 度	正 会 員	一 般 会 員	学 生 会 員	賛 助 会 員	名 誉 会 員	学 術 会 員	JSCA 建築 構造士	構造設 計一級 建築士
10	4020	135		227	29	165	2457	※3275
11	3983	131		233	28	163	2249	※3368
12	3925	131	6	230	28	157	2183	※3342
13	3909	129	8	227	26	155	2113	※3355
14	3929	134	7	231	25	151	2030	※3388
15	3910	126	6	235	25	147	1957	※3353
16	3867	122	6	234	29	145	1862	※3342
17	3853	88	10	234	32	143	1785	※3308
18	3803	101	10	237	31	137	1727	※3250
19	3773	111	7	240	34	134	1638	※3205
20	3706	116	6	239	35	128	1576	※3161
21	3609	122	3	239	35	123	1469	※3071
22	3500	114	13	238	34	114	1380	※3000
23	3442	89	7	241	36	111	1200	※2922
24	3405	117	34	241	34	116	1149	※2894

※構造設計一級建築士証の写しを貼付し、本協会に届け出た会員の数である。